

No. 887

水原、三年目の勝負

—中日ドラゴンズ—

初春の陽光を浴びて新舞子海岸でひたすらトレーニングに励む中日のルーキー、氏家雅之（愛知県、大府高出）非力と言われ
る中日投手陣期待の新人だ。180cmの長身から投げおろす球は威力抜群、「早くプロで投げたい」と言う氏家、新しい中日のスターとして活躍するだろう。

一昨年、昨年とBクラスに低迷する「水原中日」。「優勝すると言ってできるものではない。しかし選手たちもやる気を起こしているし、私も選手を信頼して使う。シーズンが終わった時はきっといい成績を！」と力強く新年の抱負を語る水原監督。
三年目の今年は勝負の年となりそうだ。

鏡 開 き

新春恒例の鏡開きが1月10日、講道館で行なわれました。会場には日本柔道界の第一者を始め、女三四郎やちびっ子、それに
外国選手と800人もの人達が集まりました。高段者による模範演技のあと、子ども組や青年組が今年初めての練習に汗を流しま
した。

そのころ、裏方さんは800人のおしるこ作りで大忙がし、おいしそうなニオイに待ちきれない子供達は調理室まで押しかけるあ
りさます。人目を引いたのが外人選手、和服をうまく着こなして、2本のはしを上手に使ってモチを食べる姿は、すっかり日
本の生活が板についた感じです。

江戸っ子かたぎ

正月休みに幾分かきれいな葛飾区を流れる中川。

下町っ子の意気を見よ！ とばかり恒例の寒中水泳大会が行なわれました。やっと九才になった芦田五月ちゃん8才の淑美ちゃんも参加者の一人だ。葛飾古式泳法保存会の水弓、水銃の技が披露されたあと、老いてなお若し65才の吉野さんが扇を足にはさ
んで、一回転する扇返しの技を披露。

そのあと幼ない両姉妹が寒さなんか平ちゃらと水温6度の身を切るような冷たさの中を泳いで見物人の歓声と拍手を受けまし
た。

氷のような水に入るならこちらは50度という熱湯の中で朝をむかえる朝湯の会の人達がいる。

会長の渡邊虎信さんは、昭和10年から35年間、戦争中を除いて朝湯を欠かしたことがないという。朝風呂をたてる銭湯がいつの
間にか姿を消し今は上野の「蒸湯」一軒だけになった。それにつれてファンがここに集まるようになり朝湯会ができたという。
定期券を買って電車でわざわざやって来る人がほとんど。朝湯に入らなければ夜が明けないという人達ばかり。江戸っ子をもっ
て任じているから意地とがまん張り合いだ。

名にし負う草津の熱湯を上回る50度。足の先がピリピリするという。医者は「41度が適温で熱い湯は体に毒」というが、この人
達「むかしからヤブのいうことと、フグの毒にや当たったことがない」と勇しい。江戸っ子かたぎまだまだ健在のようです。

封切日 1971年1月15日